



# 道路の新設

〔大森議員〕

道路の新設改良費の関係で、町道中山インター線の進捗よく状況は。

〔建設課長〕

中山インター線は、平成22年度に測量設計・一部着工予定だったが、地権者との関係で測量に立ち入れない状況になった。また、国道9号線の交差点部分の詳細設計業務は完了した。平成23年度に測量などを進めていきたい。現在、用地の交渉中。

# 大山診療所

〔小原議員〕

大山診療所の固定医が確保できていない。そのため、大山診療所で受診せず、大口診療所で受診している人が増えている。固定医を早く見つけ、安心させるのが行政の役割だと思うが。

〔保健課長〕

一日も早く固定医を確保することで、患者離れの現状を改善したい。固定医が確保できれば改善できると考えられるので、引き続き取り組んでいく。

# シロアリ駆除

〔野口昌議員〕

①環境保全型農業直接支援対策事業の補助金が69万円。どういう事業をやる予定か。

②シロアリ駆除手数料228万円。何棟の駆除か。

〔農林水産課長〕

①環境保全型、新規の事業。有機農業に取り組んでいる3件分の面積にともなう交付金。  
〔建設課長〕  
②シロアリ駆除手数料は、さざんか台団地16棟分。

# 基金

〔竹口議員〕

①町の貯金である基金は、平成20年度末が31億円、平成22年度末で40億円。毎年3〜4億円増えているが、評価は。

②大山町の予算規模100億円に對して、基金の適正規模は。

〔総務課長〕

①国の有利な交付金制度を活用して事業を行った結果、基金に積み立てができた。将来、国の優遇制度が続くのか不透明。  
②適正規模がいくらかという判断はできない。

# 財政

〔近藤議員〕

国の有利な交付金の制度が不透明なため、基金を積み立てているということだが、行政をスリム化して財政的な余裕を生み出すのが本来の形。町民は、貯金をくずしながら生活している。

地方政府である役場だけが、基金を増やしているかどうか考えるか。

〔町長〕

平成23年度も積極的に行政改革を進めている。町内の経済対策は、一生懸命知恵をしぼり提案する。

# ファンクラブ

〔吉原議員〕

①ファンクラブは、会員数が17人の減だが、どう考えるか。

②ふるさと納税にもつながる大事な事業。昨年と違うような企画は考えていないか。

〔企画情報課長〕

①会員数の減少は、高齢者の勇退が大きな原因。新規加入が少ないことも要因。  
②平成23年度の新しい取り組みとして、大山町の出身者ではないファンの獲得を考えている。

